

本日2月1日(金) 節分会(豆まき)をしました!

日本のステキな伝統をていねいに子ども達に伝えていきましょう!

早いもので2月3日は「節分」です。冬と春の交替の時季節を分けることから「節分」といいます。暦の上では4日が立春で、いよいよ自然界では大地も含めて温かな春へと動き出していくこととなります。昔から季節の分かれ目には、体調がおかしくなったり、バランスが崩れ、事故やケガになってしまうと恐れられてきました。その災いの原因としては心にゆるみが出て、その隙間に悪い鬼が現れて暴れているからだといわれ、鬼の一番嫌いな豆を投げて追い払うことによって、心や体が安定するとされてきたのが「節分に豆まきをする」と伝えられ、季節の行事として続けられて来ています。



「こどものもり」の節分には鬼が出てきません。

他の園やテレビ等では「節分」には子どもたちは鬼のお面を作り、誰かが鬼の衣装を着て金棒を持って暴れて出てきたのを、子どもたちがキャーキャーと興奮して豆を投げあったり、逃げる鬼を見て喜んでいる場面をよく見ますが……、

「こどものもり」の節分では単に「面白おかしく豆投げゲーム」

にするのではなく、「節分」の本当の意味と姿を伝えていくようにしています。

「心の中の良くない鬼(わがまま・好き嫌い・泣き虫・いじわる・うそつき・欲張り等)を追い払い「心も体もすてきな子になる」ための「まめまき」としておこなっています。



昔はその家の家長が体を洗い、新しい着物を着て準備をしたそうです。また玄関には鰯いわしの頭とヒイラギを飾りどちらも鬼の嫌いな匂いとヒイラギの刺で鬼の眼をつぶす“いわれ”から飾ったといわれています。

こどものもりでは・・・

何日も前から「節分にちなんだお話や紙芝居」をみて、造形コーナーで子どもたちが園長先生が着る「袴(かみしも)」を作り準備しました。本日、園の家長としての園長がそれを着て、木の杓ますを持ち、ちゅうりっぷ組の部屋から子どもたちと一緒に声を出し「ふくは〜うち」「オニは〜と」と言いながら各お部屋を順にまわって豆をまきました。園庭や各コーナーで活動していた子どもたちもだんだんその声に集まってきて、最後に太陽の部屋にまき、全員が年令ごとの旗のまわりに集まりました。

特別の豆を食べて、心の中のよくない気持ちを追い払いました!

太陽の部屋で「今日は特別の豆を用意してあります。この豆を心を込めて、ていねいに食べると、どの子も良い子になれますよ!」と園長先生。



「良い子になりたい人?」と聞くと、どの子もみんな「は〜い!」と元気良く手を上げました。

1才の子から順に年の数だけ一粒ずつ「良い子になりますようにおねがいします!」と願いを込めて食べました。

「豆を食べてよい子になった人!」と聞くと、どの子もみんな「は〜い」と元気よく手をあげていました。

どの子もみんなニコニコ笑顔で心のすてきなよい子になりました。この一年がどのご家庭も災い



や病気にならず、明るく笑顔の毎日でありますようにお祈りいたします  
日本の季節を大切にしてきた伝統的な行事の一つですので、各ご家庭でも2月3日は 丁寧にご家族で「まめまき」をしてみてくださいね!と思ひます。家族みんなが良い一年を過ごせますように!



恵方巻えほうまきを作って食べ、今年も元気で、良い子が育っていきます! ご家庭でも3日の夕食にどうぞ!



『恵方巻』のいわれは節分の夜にその年の恵方えほう(今年は南南東)に向かって目を閉じて一言もしゃべらず、願い事を思い浮かべながら太巻きを丸かじりするのが習わしとされています。中身は「七福神」に因み、かんぴょう、きゅうり、シイタケ、だし巻、うなぎ、でんぶなど7種類を入れることで「福を食べる」という意味があるそうです。(園では2種類ですが。)

今年ランチとして保育園児も幼稚園児も調理室の先生たちが腕をふるってくれ、みんなですす一つ目は今年の方位「南南東」を向いて、願い事がかなうように黙って食べました。その後、カウンターで恵方巻の実演があり、出来たてもいただきました。

